

春ノ十三裏

ける女房はおとこにまさりたりける人にてかねてよりおとこの出家せん事をさとりにて此むすめのなきかなしむをみてもさらにおとろくけしきのなかりけるこそあはれにみえけれ

露の玉きゆれは又もをく物を

たのみもなきは我身なりけり

十五夜へやの月のなかばになるまで涙へなみだを

なかにして思ふやう万法（まんぼう）は心か所作（しよさ）さらに